

令和3年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated]をご覧ください。

実施日：令和3年11月25日（木）
回収日：令和3年12月3日（金）
対象：生徒（回答数598名 回答率76.4%）、保護者（回答数629名 回答率80.3%）、教職員（58名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

アイコン表記のルール
80%以上
60~79%
40~59%
40%未満
10%以上
0~9%
0%未満

Table with 5 main columns: 実現度調査 質問項目, 良好ととらえている割合, 前年度比, 分析, 改善策. It contains 13 rows of data, each with sub-rows for 生徒, 保護者, and 教職員, showing percentages and trends for various school activities and facilities.

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒 72%	⇒ 0%	生徒や保護者の肯定的な回答は、前年度に対して微減・微増であるが、割合はやや高めであると言える。しかし教職員との認識差は20%程度ある。これは、週末課題や各科目における課題に対する取り組みは良いものの、形骸化し学力の定着につながっていないことを理由としている。	次年度からの新しい観点別評価の導入に伴い、生徒にとっては学習習慣の改善につながるものと期待できる。私たち教員側の意識はもちろんのこと、生徒自身も「何のために学ぶのか」ということを考えながら学習に臨めるように環境を整えていかなければならない。
	保護者 71%	⇒ 1%		
	教職員 50%	⇒ 4%		
⑮ 進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒 86%	⇒ 0%	生徒の肯定的な回答は86.3%で昨年度と同程度であるが、保護者は4ポイント増、教職員は3ポイント増となっている。日々授業改善に取り組んでおり、今後も基礎を固めながら実践的な問題にも対応できる学力を身につける授業を展開していきたい。	昨年度に引き続き、授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていく。また、課題や小テストなどをうまく組み合わせる学習内容を確実に定着させるとともに、成績上位層には発展的な内容に積極的に取り組ませる。
	保護者 73%	⇒ 4%		
	教職員 67%	⇒ 3%		
⑯ 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒 85%	↓ -2%	肯定的な回答の割合は、生徒85%及び保護者77%と昨年度と同程度になっているが、今年度から「総合的な探究の時間」を中心に3年間を見通した指導計画を見直したこともあり、教職員の肯定的な割合は、86%で昨年度よりも8ポイント上昇している。生徒及び保護者に対して、本校の進路指導体制が十分に周知されていないものと思われる。	次年度に向けて今年度の内容を継続しつつも、問題点等を検証し、改善策を検討することで、より充実した進路指導体制の確立を目指していくことが必要である。また、生徒及び保護者に対して、本校の進路指導体制を周知してもらえるよう、積極的に情報を発信する機会を設けていきたい。
	保護者 77%	⇒ 1%		
	教職員 83%	⇒ 8%		
⑰ 「総合的な探究の時間」における進路指導が充実している。	生徒 87%	⇒ 1%	肯定的な回答の割合は、生徒87%及び保護者77%と昨年度と同程度になっているが、今年度から「総合的な探究の時間」を大幅に見直したこともあり、教職員の肯定的な割合は、86%で昨年度よりも18ポイント上昇している。「総合的な探究の時間」を大幅に見直し、指導内容の充実を図っていることが、教職員が思っているほど生徒及び保護者には伝わっていないものと思われる。	近年、総合型選抜等において、高校生活で実施した「探究活動」の内容を問われることが多く、今年度から1・2年次の「総合的な探究の時間」の計画の中に「探究活動」を取り入れている。次年度以降も継続していく上で、今年度の生徒たちの活動状況等を検証し、生徒たちにとってより充実したものになるよう、指導内容の創意工夫に努めていきたい。
	保護者 77%	⇒ 3%		
	教職員 86%	↑ 18%		
⑱ 個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒 82%	⇒ 2%	肯定的な回答の割合は、生徒82%及び保護者72%と昨年度と同程度になっているが、教職員の肯定的な割合は、88%で昨年度よりも8ポイント上昇している。3年次の生徒を対象とした受験指導を中心に、生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導が行われているという実感が、教職員が思っているほど生徒及び保護者にはないものと思われる。	本校は、生徒たちの進路選択が多様であることから、個に応じた適切な進路指導がより重要である。1・2年次の生徒の個別面談や、3年次の生徒を対象とした総合型選抜及び学校推薦型選抜に向けた個別の指導等を継続しつつも、教職員全体で生徒一人ひとりに対応するといった意識を高めていく必要がある。
	保護者 72%	↓ -1%		
	教職員 88%	⇒ 8%		
⑲ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒 81%	↓ -5%	生徒の良好と捉える数値は5%減少し81%であったが、保護者89%、教職員83%とも8割を超える数値となった。普段の清掃と定期的な大掃除に加えて、コロナ対策物品を揃えて消毒に努めている結果と捉えている。	概ね、生徒、教職員の協力で清掃活動が日常の中で積極的に実施されているが、より細部の清掃の徹底やコロナ対策物品を清潔に保つなど全生徒、教職員で徹底させていきたい。
	保護者 89%	⇒ 3%		
	教職員 83%	⇒ 1%		
⑳ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒 71%	↓ -4%	良好と捉えている割合が昨年度と比べ、生徒で4%下がったが新型コロナウイルスの影響を考慮すれば概ね良好と考える。その一方で保護者で2%ほど向上している。図書館に設置されているパソコン、iPadのIT機器が整い、調べ学習や進路にむけて生徒たちにとって利便性が増したと考える。	今後とも生徒・教職員の要望を聞きながら蔵書の充実にも努めて威力ある図書館づくりを推進する。また、図書館だよりの発行等を通して、利用促進に向けた情報発信に継続して取り組んでいく。新年度から、新学習指導要領改訂の初年度にあたり、新設科目に対応した資料収集を計画的におこなっていきたい。
	保護者 75%	⇒ 2%		
	教職員 84%	↓ -2%		
㉑ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒 83%	↓ -1%	生徒、保護者とも8割を超えている結果であった。教職員については97%という結果であり、生徒の心身の健康に対する協力の結果であると受け止めている。	生徒の委員会活動の中で実施した、教室内の衛生管理の物品等の管理やコロナ対策に関する放送による呼びかけは、今後も継続していきたい。また、健康診断後の保健指導については、家庭と連絡を取りながらより丁寧に実施していきたい。
	保護者 85%	⇒ 0%		
	教職員 97%	⇒ 6%		
㉒ P T A や同窓会活動の充実を努めている。	生徒	—	肯定的な回答の割合は、保護者79%、教職員80%になっている。P T A 活動や同窓会活動について行事案内や広報活動を行っていることが、ある程度評価されている。一方で「あまり出ていない」「出ていない」と評価する保護者が約19%になっている。コロナ禍におけるP T A 行事への関心が低いことが原因ではないかと分析する。	P T A 行事への参加案内や活動報告を継続していく。コロナ禍でのP T A 総会や年次P T A 総会等について内容の充実を図り、出席者が増加するように努める。また、P T A 会員研修や環境整備活動についても、引き続き広報活動を継続していく。
	保護者 80%	↓ -1%		
	教職員 90%	↓ -3%		

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 体験学習（オープンキャンパス参加）をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒 84%	↓ -8%	例年は夏休みのオープンキャンパス参加を推進し、保護者からも目に見える形で進路指導が行われていたが、コロナ禍でオープンキャンパス自体が取りやめになったりしたため、校内での総合的な探究の時間を中心にした指導になったため、保護者からの評価が比較的低くなることにはやむを得ない部分がある。	日常の活動保護者に知らせる活動を何らかの形でとる必要がある。また担任面談の中でも進路に関わる相談をしっかりと受ける中で、進路意識の高揚を図り、生徒へ、オンラインのオープンキャンパス参加や、合同学校説明会への参加を促していきたい。
	保護者 77%	↑ 10%		
② 継続的に週末課題や教科ごとの課題を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒 80%	↓ -9%	国数英を中心に週末課題を行った。生徒の学習習慣の育成には一定寄与しているが、一部取り組みの悪い生徒も見られる生徒の間にも温度差が見られる結果となったと思われる。また保護者については、課題内容を保護者に伝えるとくみがかかったため、生徒と保護者の間に認識の差が見られたと考えられる。	週末課題等をどのように行い、それが授業評価点にどう結びつくのかや、週末課題を行う意味について、保護者にわかりやすく伝える取り組みが必要であると考えられる。本校の進路についての考え方、評価の仕組みとうについても合わせて知らせ、保護者の理解を得ながら生徒が意欲的に取り組めるような対策を考えていきたい。
	保護者 73%	⇒ 6%		

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 一日総合大学をとおして、実際の大学の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒 89%	↓ -6%	生徒の89%、保護者の68%が肯定的な意見であったが、昨年度よりもそれぞれ6%、8%減であった。本来であれば大学の先生方に来ていただく対面授業を体験することが望ましいが感染症対策のためオンラインで限られた内容となってしまった。	可能であれば対面での授業体験とし、その場で様々なやりとりが出来る形にしたい。今後もオンラインが続くようであれば技術的に解決できる範囲で一方通行ではない授業体験を企画し、さらに生徒の進路選択の役に立てる内容にしたい。
	保護者 68%	↓ -8%		
② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題等の実施が継続的に実施されている。	生徒 93%	⇒ 0%	生徒は93%、保護者は76%が肯定的な意見であった。特に生徒は自己評価が高く、昨年度と同じ数値であったが、保護者は8%減であった。保護者から見た家庭での様子が生徒の意識と一致していないためと思われる。	週末課題や授業の予習復習・宿題など、各教科で準備して取り組みを計画的に生徒に提示し、生徒もそれに従って取り組んでほしいが、その取り組み状況や成果が見えにくいのが原因と思われる。様々な機会を見て学校の取り組みと生徒の達成度を示していく必要もあるのではないかと考える。
	保護者 76%	↓ -8%		

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣呼びかけている。	生徒 86%	⇒ 7%	生徒の86.3%、保護者の78.2%が肯定的な意見であった。昨年度と比べる生徒7.6%、保護者1.9%増加した。継続的に課外講習を実施し、進路目標の実現に向けた取り組みを啓発してきたことが、肯定的な回答の増加につながっていると思われる。	生徒一人ひとりの進路目標の実現には、課外講習の期間を吟味し、できれば拡充することが改善策として考えられるが、根本的に年間を通して計画的に課外講習を実施することが重要である。本校の実情は、多様な進路選択が求められることから、講習の内容の充実はもちろん、添削指導等の個別指導の拡充も改善策として考えられる。
	保護者 78%	⇒ 2%		
② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒 84%	⇒ 0%	生徒の83.8%、保護者の79.2%が肯定的な意見であり、肯定的意見の割合は生徒0.1%増、保護者0.1%減と昨年度とほぼ同じである。昨年度と同様に、「総合的な探究の時間」を活用して進路希望別に「進路研究」を実施していることが、肯定的な回答につながっていると思われる。	「総合的な探究の時間」を活用しながら、進路希望に応じた指導を実施してきた。今年度は、担任の指導の下、生徒は自己の目標に向かって個々に適した内容・レベルの課題に取り組み、十分な成果があったと思う。今後は、さらに模試の結果等を十分に活用し、生徒個々への働きかけを強める等の改善策が考えられる。また、進路別のガイダンスや学習会などをより計画的に進め、生徒の希望進路の変更にも柔軟に対応できる体制作りを考える必要がある。
	保護者 79%	⇒ 0%		